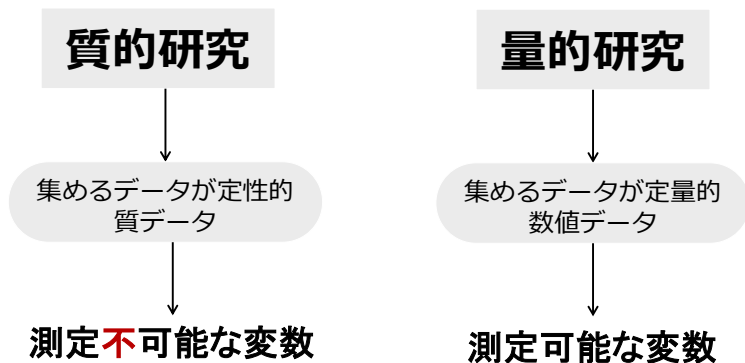


研究方法・デザイン



量的研究と質的研究



量的研究と質的研究の違い

| | 質的研究 | 量的研究 |
|-------|----------------------------|-----------------------------------|
| 目的 | 参加者の意味を探求 データからの理論を生成 | 因果関係を説明するための調査 仮説 予測 コントロールの検証 |
| アプローチ | 幅広い焦点 プロセス指向 | 狭い焦点 結果指向 |
| 対象 | 参加者 情報提供者 場 時 概念の構成単位 | 回答者 対象 あらかじめ標本は決められている |
| データ収集 | 非標準化面接 参加観察 フィールドワーク | 質問紙 標準化面接 厳密な構造化観察 |
| 分析 | テーマ的 潜在内容分析 グランデット・セオリー | 統計的な分析 |
| 結果 | 物語 民族誌 理論 | 測定可能な結果 |
| 関係性 | 研究者が直接的に深く関わる | 限定的 |
| 妥当性 | 真実性 信憑性 | 内的・外的妥当性 信頼性 |

量的研究と質的研究の違い 詳細①

| | 質的研究 | 量的研究 |
|---------|---|-----------------------|
| 研究疑問の性質 | 左記以外 なぜ？ 何が？ どうやって？ | どっちが多い？ どれくらい増えた？ |
| サンプルサイズ | 普通、小さい 事前には決定できない (推定は可能)、理論的 飽和をもって終了 | 普通、大きい 事前に決める必要がある |
| 研究仮説 | かならずしも研究実施まで完成している必要はない。むしろ実施しながら設定することが多い。 | 研究計画の段階で設定する必要がある |

量的研究と質的研究の違い 詳細②

| | 質的研究 | 量的研究 |
|----------|---------------------------------|-----------------------|
| 研究プロトコール | 必ずしも完成の必要はない。実施中に変更可能 | データ収集の前に完成していなければならない |
| 計画変更 | むしろ必要なことが多い。 | 一旦始まったら通常不可能 |
| サンプリング | ランダムでないほうが良い場合が多い。 意図的サンプリング | ランダムが理想的 |

量的研究と質的研究の違い 詳細③

| | 質的研究 | 量的研究 |
|----------|--|----------------------------|
| データの性質 | 定量化できないものすべて (文字、画像、音、におい、 会話の録音、記録、メモ、 日記など) | 数量化されたもの |
| 分析 | データを収集しながら分析 (グラウンデッドセオリー、 コーディング&エディティ ングなど) | 通常、データを収集し終え てから、統計学的処理 |
| データの提示方法 | 左記以外のすべて(しばし ば書籍、白書、ドキュメン タリー、映像など) | 数量化されたもの(グラフ、 表など) |

質的研究：帰納的アプローチ

- 研究を行うことによって、現象・事実から、研究テーマに該当していくことを見いだしていく。
- どうしてそうなったのかなどのプロセスを明らかにする。

量的研究：演繹的アプローチ

- 記述的
 - 実態をみる、何が起きているかをみる
- 相関関係的
 - 2つ以上の要素の関係をみる、さぐる(仮説必要)
- 準実験的
 - 因果関係をみる、さぐる(仮説必要)
- 実験的
 - 因果関係をみる、さぐる(仮説必要)
 - コントロール群をおく

研究デザイン詳細 質的研究①

□ 事例研究

- ある特定の事例について、多角的、全体的、洞察的に探求し、新たな知識や一般的法則を見出す研究。

□ フィールド・スタディー

- 日常の現実世界のなかで生活している個人や集団の、習慣や行動、信条や態度などを、研究者自らが実際の現場のなかに入り込んで調べる研究

□ アクション・リサーチ

- 現場を観察し、分析することによって「気づき」を抽出し、改善の工夫を立案し、実施し、評価・考察する、という手順に従って、実践的な問題を解決する過程で使用される研究

研究デザイン詳細 質的研究②

□ 現象学的研究

- 人間の経験をあるがままの形で捉え、記述していく研究。人間の意識や感覚などの実態「事実そのもの」（生活世界）に戻ろうとするフッサールの考え方に基づく。

□ 解釈学的研究

- 人間の内的意識や精神的側面に関心を向け、パターン化された意味や文脈に織り込まれた意味を解釈する研究

□ グラウンデッド・セオリー

- 過剰な数量的研究重視からの脱却を目指して、データを系統的に収集・分析して理論を生成する過程（帰納的推論）に焦点を充てた研究

研究デザイン詳細 質的研究③

□ エスノグラフィ

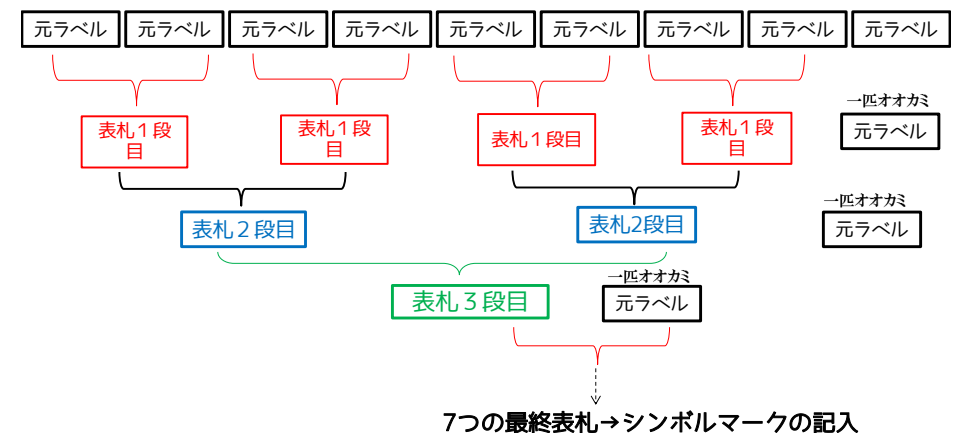
- 現地人（その現象の中の人）から何かを学び取るやり方。その中に暮らす人たちの人生経験や解釈（イーミック）を、外に暮らす人たちの見方（エティック）と比較する研究。フィールド・スタディーによって行なわれる。

□ 質的統合法 (KJ)

- 質的統合法は、ばらばらのデータから試行錯誤による「仮構想」のプロセスを経て、「整合性のある論理構造」を見出す作業

質的統合法 (KJ法) 分析の手法 (例)

- ①元ラベル作成
- ②グループ編成
- ③データの構造化と空間配置
- ④シンボルマークの作成
- ⑤ストーリー作成



研究デザイン詳細 質的研究

□ 内容分析

- テキストのある特定の属性を客観的・体系的に同定し、推論を行うための方法である。アンケートの自由記述や日記文などのすでに記述されたテキストの分析に適用でき、テキストの中で何が語られているのかを知るために利用できる。

Table 4 内容分析における手順

| | |
|------|---|
| 第1段階 | リサーチクエスチョン(研究の問い)の決定 |
| 第2段階 | 質問への回答のデータ化 回答のなかから不要な部分を削除し、素データを作成する |
| 第3段階 | 基礎分析 大量のデータをできる限り単純化する |
| 第4段階 | 本分析 類似した意味内容の要素を探し、それらを適確に表す表現へと置き換える |
| 第5段階 | カテゴリの信頼性の確認 形成されたカテゴリの信頼性を確認する |

舟島なをみ、質的研究への挑戦 第2版。
東京：医学書院、2007.

研究デザイン詳細 量的研究①

□ 実験研究

- 現象に関わる多くの要因の中から、いくつかの要因だけを選び出して、それ以外の要因は同じ状態に保つようにコントロールしたなかで、選び出した要因間の関係性（因果関係性）を検証していく研究

□ 準実験研究

- 臨床の場での介入の効果を評価していく場合には、純粹な実験研究を行うことは困難である。準実験研究は、実験操作は行うが、実験に伴う統制群の設定や、無作為化などは、強く規定しないで行なう研究

□ 遡及的／相関的研究

- 健康障害に関わることが、どのような原因で、どのような結果をもたらしているかを明らかにしていく研究

研究デザイン詳細 量的研究②

□ 調査研究

- ありのままの現象を量的に記述して、現象の中にある変数間の関係性を見出したり、新たな要因（変数）を発見していく研究

□ 評価研究

- ある目的を達成するために用いた実践や手順、方針などが、対象に対して有効に機能しているかどうかを明らかにしようとするために行う研究

□ ニーズ・アセスメント

- 実践の引き金となるニーズを調査・分析して、次の実践の望ましい方向性に向けた提案を行っていく研究

研究デザイン詳細 量的研究③

□ 方法論的研究

- 研究対象を説明していくために必要なデータを得るための研究用具や研究技法の開発や検証・評価を目的として行われる研究